

ISOM Japan Newsletter #001

目次

- 第14回 ICOM開催
- 特別講演、招待講演のご紹介
- 第9回日韓東洋医学シンポジウム
- 事務局連絡
- 秋葉哲生新理事長からの御挨拶

第14回国際東洋医学会学術総会が開催され盛況裏に閉幕・次回は日本開催

2007年12月1日～12月5日、台湾台北市で「東洋医学のグローバリゼーション」をメインテーマとした第14回国際東洋医学会総会が開催され盛況裏に閉幕しました。

日本からは、室賀昭三・国際東洋医学会会長、秋葉哲生・日本支部長はじめ、国際理事の津谷喜一郎氏、菊谷豊彦氏（次期、安井廣迪氏に交代）、丁宗鐵氏、大野修嗣氏、永井良樹氏、日本支部理事として安井廣迪氏、吉富誠氏が参加、世界中からも多くの研究者が集いアジア伝統医学の祭典にふさわしい盛り上がりを見せました。

日本の安井廣迪氏を含む5人の Keynote Speaker、また、北里研究所の山田陽城氏、東京大学の永井良樹氏を含む Invited Speaker が招聘され講演を行いました。

テーマ：東洋医学のグローバリゼーション

期日：2007年12月1日～12月5日

会場：台湾・台北市・台大醫院國際會議中心 Taiwan University International Convention Center

特別講演・招待講演、演者は、下記の通り。

Keynote Speakers

Eisenberg, David M. U.S.A.



Director of the Osher Institute at Harvard Medical School and the Division for Research and Education in Complementary and Integrative Medical Therapies
Director of the BWH Osher Integrative Care Centers and Program in Integrative Medicine
Advisor to the National Institutes of Health, the Food and Drug Administration and the Federation of State Medical Boards with regard to complementary, alternative and integrative medicine research education and policy

Topic of speech

Exploring the Treasure House of TCM: Combining Expertise in TCM with State of the Science Technology to Establish 21st Century Integrative Medicine

中国伝統医学の宝庫を探検し、中国伝統医学のノウハウと 21 世紀の統合医療を確立するための最先端の科学技術を結合する

Ifrim, Mircea Romania



Anatomist, Anthropologist, Medical Doctor, Professor, Scientist

Chairman of the Society of the Anatomists of Romania, Since 2000

Topic of speech

A study of the correlation between the age and efficiency of accupoints

年齢と経穴の効果の関係に関する研究

Kim, Sung-Soo Korea



Director of Kyung-Hee Oriental Medicine Center

Topic of speech

New Paradigm for Globalization of Oriental Medicine

東洋医学のグローバリゼーションのための新しいパラダイム

Wu, Tian-Shung Taiwan, ROC



Director of National Research Institute of Chinese Medicine

Topic of speech

Study on the aphrodisiac activity of Chinese herbal medicine

中国薬物療法の催淫作用の研究

Yasui, Hiromichi 安井廣迪 Japan



Director, Yasui Clinic, Guest Professor in Tianjin College of TCM, China, Academic and Educational Advisor, Goto College of Medical Art and Science, Tokyo

Topic of speech

The Role of Kampo Medicine in the Global Standard of TCM

中国伝統医学のグローバル・スタンダードにおける漢方医学の役割

Lin, Juang-Geng 林昭庚 Taiwan, ROC



China Medical University

Topic of speech

Development of the Chinese medical insurance in Taiwan

台湾における中国医学の医療保険の発展

Invitation lectures

- Alcom, Daine Australia** The Development of Chinese Medicine in Australia
- Booker, Tony England** The changing face of Chinese Medicine in the UK
- Ifrim-Chen, Feng Romania** Approach to cordyceps effect on menstruation
- Verpoorte, R Holland** Metabolomics: The Pharmacognosists dream becomes true!
- Xue, Charlie C. L. Australia** Acupuncture for Allergic Rhinitis: a randomised controlled trial
- 山田陽城 Haruki Yamada Japan** New strategy for elucidation of action mechanisms and active ingredients of Kampo medicines
- Wu, Yang-Chang Taiwan, ROC** Current Development in Anti-Viral Chinese Herbal Medicine
- Lee, Mei-Hsien Taiwan, ROC** Current situation for biotechnologically personnel training of Chinese herb medicines in Taiwan
- Lee, Hye-jung Korea** New Paradigm of Acupuncture Research
- Chiou, Wen-Fei Taiwan, ROC** Evaluating the anti-inflammatory? activity of Sophora flavescens
- Che, Chun-Tao Hong Kong** Challenges in Studying Poly-Prescriptions (Fu-Fang) -- Quality, Pharmacology, and Clinical Studies
- Kim, Janghyun Korea** Efforts for Strengthening International Competitiveness of Traditional Medicine by the Scientific Community of Korean Oriental Medicine
- Kim, Ho-soon Korea** Globalization of Korean Medicine
- Yuan, Chun-Su U.S.A.** Currently status of Oriental Medicine research in the U.S.
- Chang, Hen-Hong Taiwan, ROC** The diagnosis procedure for Qi-vacuity pattern in traditional Chinese medicine
- Cho, C.H. Hong Kong** A Potential Therapeutic Application?for Angelica sinensis in Gastrointestinal Diseases
- Kuo, Terry B.J. Taiwan, ROC** Improvement of pulse diagnostic instrument
- Chen, Chieh Fu Taiwan, ROC** Global Pharmaceuticals and Botanicals Market
- Huang, Yi-Tsau Taiwan, ROC** Prospects and Challenges of Traditional

Medicine in a Global Context

Hwang, Shie-ming U.S.A. Oriental Medicine Evidence-Based Research

Yeung, Hin Wing Hong Kong ELCM and Globalization of Chinese Medicine

Liu, Liang Hong Kong Multi-targets Treatment of Chinese Medicine - A Novel Therapeutic Strategy for Complicated Diseases

Cheng, Juei-Tang Taiwan, ROC Application of herbs in the treatment of diabetic disorders in Chinese traditional medicine

Lai, Gi-Ming Taiwan, ROC Induction of apoptosis and differentiation, arrest of cell cycle and regulation of signaling pathway are the molecular mechanisms responsible for anticancer effect of TCM

Hsieh, Ching-Liang Taiwan, ROC Two-year Common Training System of New Chinese Medicine Residents in China Medical University Hospital

Chien, Du-Shieng Taiwan, ROC Current Status of Botanical Drug Development in Taiwan

I-Hsin Lin Taiwan, ROC Taiwan Accreditation on Chinese Medical Hospitals and Chinese Medical Departments Affiliated with A Western Hospital

Yung-Hsien Chang Taiwan, ROC Crude Extracts of Ganoderma lucidum on Immuno-regulate Function in Balb/c Mice In Vivo

永井良樹 Yoshiki Nagai Japan A Case of Disappearance of Edema and Ascites with 9.6L Urination by Herbal (木防已湯去石膏合五苓散合真武湯) Therapy

Luc PIETERS Belgian In vitro and in vivo determination of antioxidative activity - a case study with Pueraria lobata

津谷喜一郎 Kiichiro TSUTANI Japan The History and Current Situation of the Classification of Chinese Traditional Medicine Prescription in China and Japan

C.Y. Kwan Taiwan, ROC.

Yury. V. Ponomarev Russia 20-YEARS EXPERIENCE OF APPLICATION OF ACUPUNCTURE IN A SURGICAL HOSPITAL

Selena Liao Malaysia Challenges of Globalization for the Private Sector and The Government – Towards The Development Of The Malaysian Chinese Medical Profession

安井廣迪氏の講演要旨

日本からは、Keynote Speaker の一人として安井廣迪氏が講演し、新たな伝統医学の枠組みの提案として多くの聴衆に感銘を与えた。以下に、安井氏の講演抄録を転載する。

国際標準としての中国伝統医学に日本の漢方医学が果たしうる役割

広い意味での中国伝統医学（Chinese Traditional Medicine）の世界標準は、中国のTCMである。古代中国に発し、この国で発展し、現在でも広く用いられているTCMがこの学問における標準であることは当然のことである。しかし、韓国や日本では、この医学は独自の発達を辿り、中医学とはまた別の形を持っている。私は、ここで、日本の漢方医学が、TCMの発展に果たしうる役割とその可能性について述べる。

日本の漢方医学の特色は、いくつか挙げられている。

特に、漢方医学において病因病機をブラックボックスとしている点が、TCMの論理と大きく異なっており、これら2つの伝統医学の学問的対話を困難としている。しかし、一方では、ブラックボックスの中身を問わないがゆえに、この医学を西洋医学の文脈の中で漢方薬を使用することを容易にした。医師たちは、保健でカバーされたこれらのエキス製剤を使用して、症例集積研究やランダム化比較試験（Randomized Clinical Trial）などの臨床試験を行った。中医学とは異なったこの方法論は、中国伝統医学を別の方向から見直し、医学全体にとって新たな研究の対象であることを世界に知らしめた。

日本には、健康保険で使用するこのできる148種類のエキス製剤がある。その半数以上は『傷寒論』『金匱要略』の処方である。これらの処方は、中国伝統医学の処方学の基礎をなすものであり、日本には、過去250年以上にわたってこれらの処方の経験の膨大な蓄積がある。通常は、「傷寒」にしか応用されないこれらの処方が、多くの適応症を有し、臨床上幅広く用いることができることを示したのは日本の医師たちであった。

ごく最近になって、江部洋一郎が、『傷寒論』『金匱要略』に基づき、気血津液の体内における動きを中心に人体の生理学・病理学を体系的に整理し、それに対応した治療学を構築した。臨床的にすぐれ、これまでにない論理構造を持ったこの学説は、これから世界に向かって発信できる日本の漢方医学の重要な部分である。

このように、日本の漢方医学にはTCMにはないものがある。これらは、一元的な医療制度のもとに実践され、西洋医学の不得意な分野を補うばかりか、まだ多くはないが西洋医学の治療法を凌駕するものも出現してきている。

このような日本の漢方医学は、TCMの世界標準の中に組み入れられるべきであり、そのことが、この医学の発展をより高度なものにし、ひいては医療を受ける側に大きな福音をもたらすはずである。

中国伝統医学におけるグローバリゼーションの確立は、中国の中医学のシステムを全世界に普及させることによってだけでなく（これはもちろん必要な事ではあるが）、これまで韓国や日本などで培われてきた技術や理論や経験をもその中に組み込むことによって完成するであろう。（終）

第9回日韓東洋医学シンポジウム

日韓東洋医学シンポジウムは、2003年に第1回を行い、その後、1年に2回、韓国と日本で交互に開催してきた。今回は国際東洋医学会に時期をあわせ、台北の国際東洋医学会会場内で開催された。テーマは、「生薬の品質管理」とし、日本・韓国、合わせて約50名が参加し活発な討議が交わされた。

参加申し込みは当日直接会場にて行われた。

記 第9回日韓東洋医学シンポジウム

総合テーマ：生薬の品質管理

日本側演者：吉富誠

韓国側演者：李鐘安

期日：2007年12月3日

会場：Taiwan University International Convention Center

本件に関する問い合わせは下記まで

〒860-0845

熊本市上通町5-20-210

TEL096-354-6625 Fax096-277-5115

goodrich@silver.plala.or.jp

吉富復陽堂医院

吉富誠

過去のこのシンポジウムの開催状況を紹介する。

第1回（2003.5.13 博多）テーマ：症例検討

第2回（2004 横浜）テーマ：日韓における東洋医学の歴史、関節リウマチ

第3回（2004 ソウル）テーマ：裴元植先生の質問に対する回答、東医宝鑑、頭痛

第4回（2005 富山）テーマ：感冒の治療、高橋暁正の韓日での影響

第5回（2005 大丘）テーマ：日韓伝統医学交流史、高齢化社会における補剤の役割

第6回（2006 大阪）テーマ：日韓の伝統医学教育、女性の漢方

第7回（2006 ソウル）テーマ：小児漢方、救急医学的漢方応用

第8回（2007 広島）テーマ：生薬の修治について

『漢方の臨床』英文版発行のお知らせ

『漢方の臨床』誌は、1938（昭和13）年に結成された東亜医学協会の機関誌として、昭和54年以来、湯液、鍼灸の臨床、薬学、医史学、更には医学エッセイやニュースなどについて幅広く掲載し、学術振興に寄与してきた。

この雑誌の創刊時からの編集主幹であった矢数道明先生は、世界各国との学術交流を推進することを本誌の使命の一つとし、数々の海外の漢方医学情報を誌上において紹介してこられたが、日本からの情報発信に関しては、語学的問題や、発表するメディアの問題もあり、そのご意思を実際に実行に移されるには至らなかった。

近年、世界の状況が大きく変わり、人々の健康を担ってきた伝統医学に対する再認識とその継承が叫ばれ、わが国に対しても漢方医学に関する情報発信が求められるようになった。そこで、このたび、このような世界の要望に応じるべく、『漢方の臨床』の英文版（Journal of Kampo Medicine）が発行されることになった。編集委員長は秋葉哲生氏。当面発行は年1回である。

当面は、前年に発行された12号の中から、優れた内容で、かつ欧米の研究者に有益であると判断された論文を掲載する。発行形態は東亜医学協会ホームページにPDF版で掲載することとし、一般的な出版は行わない（必要に応じて簡易印刷で製本する）。サイズは変形レターサイズ（210.0mm×279.4mm）で、表紙・広告を入れて36ページとなる見込み。

なおこの記念すべき創刊号のテスト版が印刷製本され、I COM総会の Gala Party の席上で、米国の Eisenberg 氏をはじめとする英語圏からの出席者に秋葉編集長から「創刊号」との説明とともに手渡され、大いなる祝福をうけた。

第1号の内容は以下の通り

○Foreword/For the future development of Kampo Medicine

Tetsuo Akiba

1) Efficacy of Kampo Medicine to Advanced Cancer

Nobuyasu Sekiya, Katsumi Hayashi,
Yukitaka Hiyama, Yuji Kasahara, Kenji Ohno,
mitsutoki Chino, Takao Namiki, Yoshiro Hirasaki,
toshiaki Kita, Katsutoshi Terasawa

2) Therapy of Kampo Medicine to Atopic Dermatitis

Michiyo Sakurai, Yukihiko Honma, Koichi Yozawa,
Yoshinori Otsuka, Minoru Yaegashi

3) 3 Case Reports of Obesity

Makoto Arai

4) 3 Case Reports of Dysmenorrhea by Hangekobokuto

Emi Saito, Yuko Takahashi, Toshihiko Hanawa

5) Case Report/Saibokuto to Bronchial Asthma

Hiroki Mizobe.

○Kampo Medical Quiz · Insomnia

Keigo Nakata



事務局連絡

1. 新理事長に秋葉哲生氏が就任

2007年9月28日に開催された理事会、および続いて行われた持ち回り理事会で、秋葉哲生氏が新理事長（日本支部長）に選出された。これに伴い、事務局が金匱会診療所からあきば伝統医学クリニックに移り、小根山事務局長は退任して監査役に就任した。

室賀昭三氏は理事長を退き、国際東洋医学会の会長職に専念することになった。また、菊谷豊彦氏が国際理事を退任され、監査役に就任、安井廣迪氏が国際理事に就任した。

2. 2010年に国際東洋医学会総会を日本で開催

以前より日本で総会を開催してほしいという要望が海外から寄せられており、室賀氏の国際学会の会長任期中に日本で開催することとなった。

3. ニュースレターの充実を

このニュースレターは、国際東洋医学会や、世界各国の漢方医学関係のニュースを出来るだけ早く皆様のお手元に届けるべく、発行は年4回とし web 上に掲載、必要に応じて臨時増刊号を出すべく努力することになった。

新理事長就任の御挨拶

このたび諸先生の御推挙をいただき、国際東洋医学会日本支部長に就任いたしました。国際東洋医学会会長の室賀昭三先生を支えながら、この名誉ある地位を辱めないように全力投球するつもりですので、会員の皆様方の御支援と御鞭撻をよろしく願いいたします。

1990年代から顕著になってきた非西洋医学を評価する潮流は次第に拡大し、21世紀に至って国境を越えた連携が世界的に求められるようになりました。

東アジアの各国にはそれぞれ特色ある伝統医学が存在します。わが国際東洋医学会（ISOM）日本支部は、日本における漢方医学の研究と実践を推進するとともに、メンバー各国と協調し、伝統医学を発展させることを目的として活動しています。

各国の ISOM 会員の皆さん、これから共に手を携えて東洋医学の発展に尽力しましょう。そして、2010年の日本開催の第15回国際東洋医学会学術大会においでください。そこで御一緒に高々と杯を掲げようではありませんか。

国際東洋医学会・日本支部長 秋葉哲生

あきば伝統医学クリニック院長
慶応義塾大学漢方医学講座客員教授
千葉大学医学部非常勤講師

ISOM Japan ニュースレター 2008年01月号#001

発行日 2008年01月01日

編集者 ニュースレター編集委員会

発行者 秋葉哲生

発行所 国際東洋医学会日本支部（伝統医学研究会あきば伝統医学クリニック内）
〒289-1805 千葉県山武市蓮沼ニ-2086

事務局電子メール：準備中

ウェブサイト <http://isomjpn.umin.jp/>

ウェブサイトに関する連絡先：準備中